

平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 長尾 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成28年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立への取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

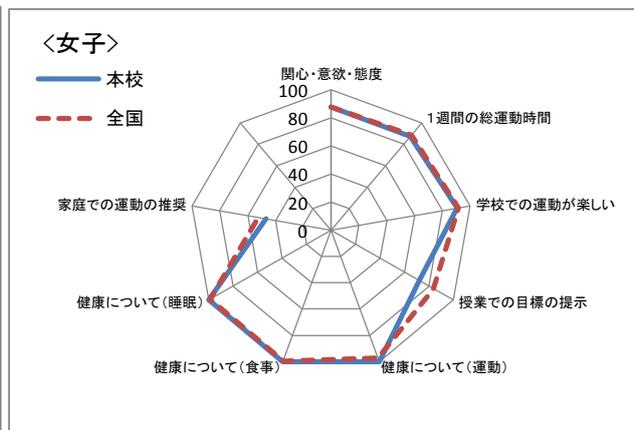
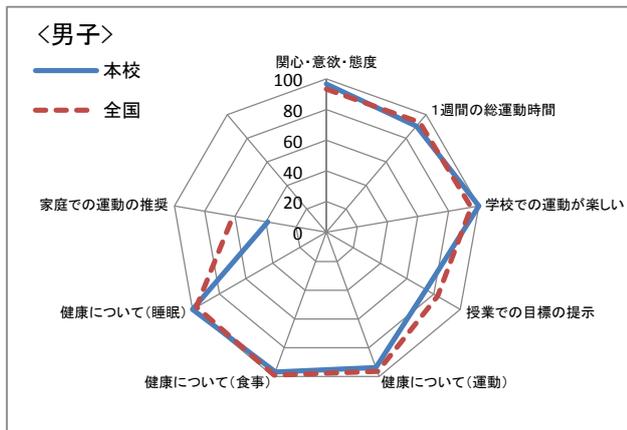
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	#####	22.42	53.92
本市	16.78	19.79	31.93	41.14	51.08	9.41	#####	23.82	53.77
全国平均以上の種目	○	○	○		○		○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	18.60	37.21	40.06	41.29	9.61	#####	13.88	55.54
本市	16.48	18.34	35.88	39.07	40.17	9.67	#####	13.97	54.74
全国平均以上の種目	○		○		○		○	○	○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

男女とも運動に対する関心・意欲・態度や健康に関する意識に関しては全国平均と比較してもほとんど変わらず、高水準にある。一方、「授業におけるめあての提示」や「家庭での運動の推奨」については、全国平均と大きな隔たりがあった。授業改善と保護者へのさらなる啓発をしていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

年度当初、体力テストの適切な測定のための職員研修を実施した。来年度は、外部講師を迎えて研修を行う予定である。また、運動場に投げる力を遊びながら高めるロープウェースローや跳躍力を高めるジャンプタッチを常時設置したり、校内に体力アップの秘訣や各学級の取組状況の紹介、握力測定コーナーの設置、握力ランキングの表示、「にぎにぎ(握力向上器具)」の設置等を行ったりして、子どもの体力向上への意識を喚起するようにした。外部講師を招いて体育科学習の校内研修を行った。その中でモデル授業の公開し、職員間で体育科指導におけるポイントの共通理解を図り、体育科学習のさらなる充実を目指した。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

一校一取組運動として、「スポコン広場」の北九州地区大会における競技種目(2種目)について、全学年で実施できるよう、中休み等の活用を図った。そのうち、大縄については運動委員会が中心となり、各

学級単位で参加の「大縄記録会」を実施した。また、生活様式の見直しのために、学校だより等を活用して定期的に発信したり、保護者に児童の体力の現状を知ってもらうために保護者と一緒に新体力テストに取り組む「大人の体カテスト」を実施するなど保護者への啓発活動も積極的に行った。